



頭痛には、日常的に経験する疾患や、滅多にないが生じると生命に関わる重篤なものまで、様々な疾患と(症状)があります。脳神経外科領域以外にも、耳鼻科や眼科、皮膚科、神経内科、内分泌内科、精神科、産婦人科など多くの診療科に及ぶことがあります。

その一部には、

片頭痛(拍動性)、緊張型頭痛(絞扼感)、群発頭痛(夜間の顔面痛)、三叉神経痛(顔面痛)・舌咽神経痛(嚥下時の痛み)、後頭神経痛(電撃痛)、脳震盪・急性硬膜下血腫・急性硬膜外血腫・脳挫傷などの頭部外傷、慢性硬膜下血腫(認知機能の低下など)、くも膜下出血(今までにない激しい痛み)、脳出血(麻痺など)、動脈解離(後頸部の突然の拍動痛)、静脈洞血栓症(横になると痛い)、脳動静脈瘻(拍動性の耳鳴り)、脳動静脈奇形、内頸動脈海綿静脈洞瘻(拍動性の眼痛や複視)、脳梗塞(意識障害麻痺など)、側頭動脈炎(こめかみの痛み、結節)、脳腫瘍(起床時の頭痛)、水頭症(認知機能低下)、キアリ奇形(手足の感覚障害)、低髄圧頭痛(起きると痛い)、頸椎疾患(手足の痺れや麻痺、歩行障害など)、頸椎偽痛風(頸部の運動による痛み)、気管支拡張剤・降圧剤・冠血管拡張薬などの薬剤性、薬物乱用頭痛(鎮痛剤の長期内服)、帯状疱疹(発疹を伴う痛み)・髄膜炎(発熱項部硬直)・脳炎(意識障害)・全身感染症などの感染症、無菌性髄膜炎、高血圧性脳症、

甲状腺機能低下症、低酸素、高山病、一酸化炭素中毒、シアン中毒、アルコール中毒、ニコチン中毒、緑内障(目の痛み)、眼精疲労、視神経炎(視力視野障害)、副鼻腔炎や副鼻腔腫瘍(下を向くと痛み悪化)、中耳炎、外耳道炎、睡眠時無呼吸、運動労作性頭痛(激しい運動や腹圧の上昇で生じる)、低気圧・寒冷刺激による頭痛、うつ病、悪阻、ビタミンA過剰摂取(脳圧亢進)などがあります。

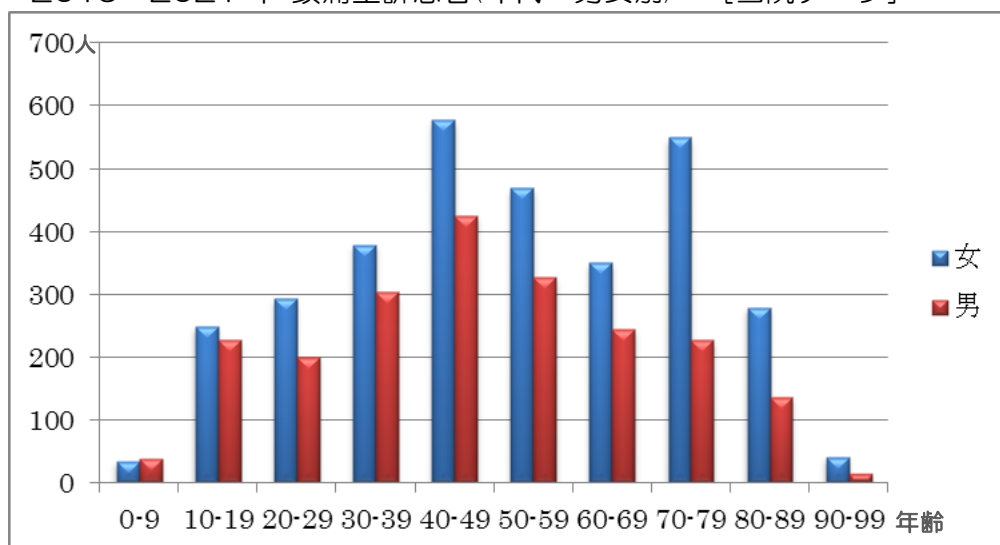
突然の強い頭痛、今まで経験したことのない様な頭痛、50歳以上で初発の頭痛、神経脱落症状(運動麻痺や感覚障害、意識レベルの変化等)を伴う頭痛、癌や免疫不全状態での頭痛、精神症状を有する頭痛、発熱と項部硬直を有する頭痛、生活に影響を及ぼす頭痛などがあるときは、精査が必要なことがあるので相談していただければと思います。



命に関わらない頭痛

命に関わる頭痛

2019～2021 年 頭痛主訴患者(年代・男女別) [当院データ]



危険な頭痛を見逃さないように、頭痛の診断を受けましょう！